「ミュージカルとは？」

そもそもミュージカルとはどのような芸術なのでしょう。

ミュージカルの三大要素と言えば「歌」・「踊り」・「芝居」。

ではこの３つがあればミュージカル？

いえいえ、その理解だけではまだまだです。

ヨーロッパで生まれた音楽の様式としての美しさにより重きを置くオペラに対し、

ミュージカルはもっと私たちの＜リアル＞を表現しようとする演劇です。

この演劇は＜リアル＞を表現するために音楽の力を借りたのです。

音楽にはイメージを増幅させる効果があります。

舞台は＜現実＞ではなく、＜イメージ＞を表現した世界です。

演劇に盛り込まれた歌や踊りは、

この創造され、提示される世界で訴え、また楽しむための表現方法のひとつなのです。

種類は一般的なストーリーものが最も多く、

現在も様々なテーマやシーンのミュージカルが増えています。

また、『コーラスライン』や『キャッツ』など

ストーリー性よりもメッセージ性を重視したものはコンセプト・ミュージカルといいます。

オペラの形式―音楽だけで進行する―を借りたミュージカルに、

『ジーザス・クライスト＝スーパースター』や『レ・ミゼラブル』があります。

こうしたものは一部の例で、比較的新しい表現芸術であるミュージカルは

まだまだたくさんの可能性を持っています。

また、『雨に唄えば』が代表するシネ・ミュージカルや、

ディズニー・アニメも、映画を媒体としたミュージカルです。

* 説明を詳しく

/////////////

ということでまとめてみました。

本当はこの後が先に書いたやつ。あまりに長かったのでそれを短くした訳だ。

使うか使わないかは自由です。

←を最初に載せて、せっかく書いたので↓をリンクででも貼ってくれればと。

/////////////

先ほどの内容をさらに詳しく知りたい方向け。

■オペラとの違い

多くの方が疑問にされるのは、オペラとの違い、または劇中歌を持つストレートプレイとの違いかと思います。それはどちらも「歌」・「踊り」・「芝居」の要素を持ちうるからです。まずそこを簡単にご説明します。

まずオペラとの違いについて。ミュージカルはヨーロッパ発祥のオペレッタを土台にしていますから、オペラの親戚であることは確かです。両者の違いをざっくりと言うならば、オペラがヨーロッパ的な様式美なのに対して、ミュージカルはもっと私たちの＜リアル＞を表現しようとする演劇です。オペラやオペレッタは、＜音楽＞に基づいた＜様式＞で、ベルカント唱法という独特な発声を用い、いかにその声が音楽的にすばらしいかということを最も重要とします。対してミュージカルの歌詞は訓練された地声で、感情表現を伴って、ドラマの内容を的確に伝えようとします。ダンスについても同様で、たとえばタップやジャズといった様式を扱いはするものの、それには依らず、動きとして感情的なものを表現しようとするのです。

　劇中歌を持つストレートプレイとの違いは、舞台の中で、歌が「歌」として独立しているか、もしくは歌そのものが舞台の劇的表現手段であるかです。もちろん後者がミュージカルです。

■なぜ突然歌い踊るのか

　これはもうひとつよく言われるであろう疑問のひとつです。しかししっかり説明しようとすると少々長く専門的になってしまいますので拙いながら簡潔にご説明を。

先ほどミュージカルの歌と踊りは劇的表現手段と言いましたね。舞台はそもそも作られたもの（創造物）です。私たちはそれを知っていて、またそれが解っているから面白いのです。自然に言葉を喋っているようで、また、自然に体を動かしているようであって、それら舞台の上の言葉・動きは全て選び抜かれた劇の構成要素です。ですからその表現は様々なやり方があるのです。皆さんは普段の経験でも、詞を読むだけより、音楽に乗せて歌ってもらった方が心に届くことがあるでしょう。それは音楽が歌詞のイメージを増幅させるからです。ミュージカルはそれを台詞に利用してしまった演劇と思ってください。踊りについても同様です。踊りは主に内面を外に向けて表現しようとするムーヴメントであり、伝えたいものを大きく表現する効果があります。すなわち演劇という表現芸術において、ミュージカルはその名の通り音楽の力を使って観客に示すものを増幅させようとしているのです。

もうひとつ。突然の歌・踊りは、目の前のものが創造物であることを、台詞以上に感じさせます。すると観客はその作られたものがより自分たち観客に向けられたものだと感じます。つまりミュージカルは台詞劇よりも観客に対して開かれた、観客自身もそれが自分たちに向けられていくものとして受け止めやすいジャンルといえるのです。

「普通人間は突然歌い踊らない」。そんなのは当然です。ですが舞台は＜現実＞ではなく、＜イメージ＞を表現した世界ですから、その表現のために音楽、歌・踊りという手段が用いられるのは間違いではないはずです。

そして単純に我々は音楽が好きなのです。

■どのような種類があるか

　ミュージカルは起承転結のストーリーを持つブック・ミュージカルが最も多いです。初期の頃から最もポピュラーだった「ボーイ・ミーツ・ガール（恋愛もの）」から、例えば社会性の高いものなど、現在も様々なテーマやシーンのミュージカルが増えています。

また、『キャバレー』を端に、『コーラスライン』や『キャッツ』などストーリー性よりもメッセージ性を重視したものはコンセプト・ミュージカルといいます。

　先ほど違いを述べたオペラの形式―つまり音楽だけで進行する―を借りたミュージカルに、『ジーザス・クライスト＝スーパースター』や『レ・ミゼラブル』があります。これらはもちろん最初に述べた理由から、オペラではなく間違いなくミュージカルです。

こうしたものは一部の例で、比較的新しい表現芸術であるミュージカルはまだまだたくさんの可能性を持っています。

話を広げれば、ミュージカルは舞台のみならず、映画でも広く展開される芸術であり、これらはシネ・ミュージカルと呼ばれます。最も初期で代表的なものが、ジーン・ケリー主演の『雨に唄えば』です。また、ディズニー・アニメも多くがミュージカル形式です。ディズニーの影響でミュージカルが好きという方は多いのではないでしょうか。

少々長くなってしまったでしょうか。しかし語ればこれでは足りないのです。それでもミュージカルについて少し見識を深めていただければミュージカルを愛好する身として幸いです。しかしながら百聞は一見に如かず。まずは気軽にミュージカルを観てください。よければESSASSAから…

＜参考文献＞

藤田敏雄、『ミュージカルはお好き？日本人とミュージカル』、ＮＨＫ出版、2005年。

喜志哲雄、『ミュージカルが≪最高≫であった頃』、晶文社、2006年。